

薪を高効率にガス化燃焼するボイラー「ガシファイアー」



薪ボイラーで沸かした足湯体験



上流域の森林資源を活用した足湯
 森林資源の宝庫である阿賀野川上流域から調達した薪を燃料として、同じく流域の会社を取り扱う、高効率燃焼の薪ボイラーでお湯を沸かして、臨時の足湯を河床で体験してもらいました。

次ページのコラムも必読！

第2部

まぼろしの阿賀の逸品の数々を、
 これからの阿賀野川ブランドに活かす

これまで阿賀野川エコミュージアムが発掘してきた阿賀の逸品の数々。フォーラム当日は、豊かさを引き換えに、私たちは何を忘れてきたのか、見つめ直しました。

「咲花きなせ堤河床」が会場

フォーラム第2部は屋外に出て、阿賀野川に面した「咲花きなせ堤河床」をメイン会場として、「蒸しかまど炊飯」と「薪ボイラーの足湯」を体験しました。

この河床は、これまで背を向けがちだった阿賀野川に再び向き合うための舞台として、平成23年7月の水害を乗り越えた咲花温泉が同年9月末に設置しました。咲花温泉では、阿賀野川ブランドが皆から認められるために、公害の発生も含め阿賀野川の歴史・文化に向き合うことを提案しています。

舞台は「咲花きなせ堤河床」へ



失われつつある郷土料理の稀少な価値を再発見

阿賀野川エコミュージアムを進めていくと、阿賀野川流域には、かつて光輝いたけど今は失われた郷土料理の数々が眠っていることが判明しました。

例えば、安田瓦の職人だったおばあちゃんからは、泥漬け(瓦の原料の粘土で漬けたナスの漬物)の漬け方を伝授していただき、阿賀町の農家民宿の方々からは失われつつある奥阿賀の郷土料理の数々を教えてくださいました。
 当日の昼食は、そうした稀少な郷土料理を盛り込んだ「豪華な粗食」を皆さんと味わいました。

粘土で漬けた泥漬け

昔懐かしい「蒸しかまど」炊飯体験

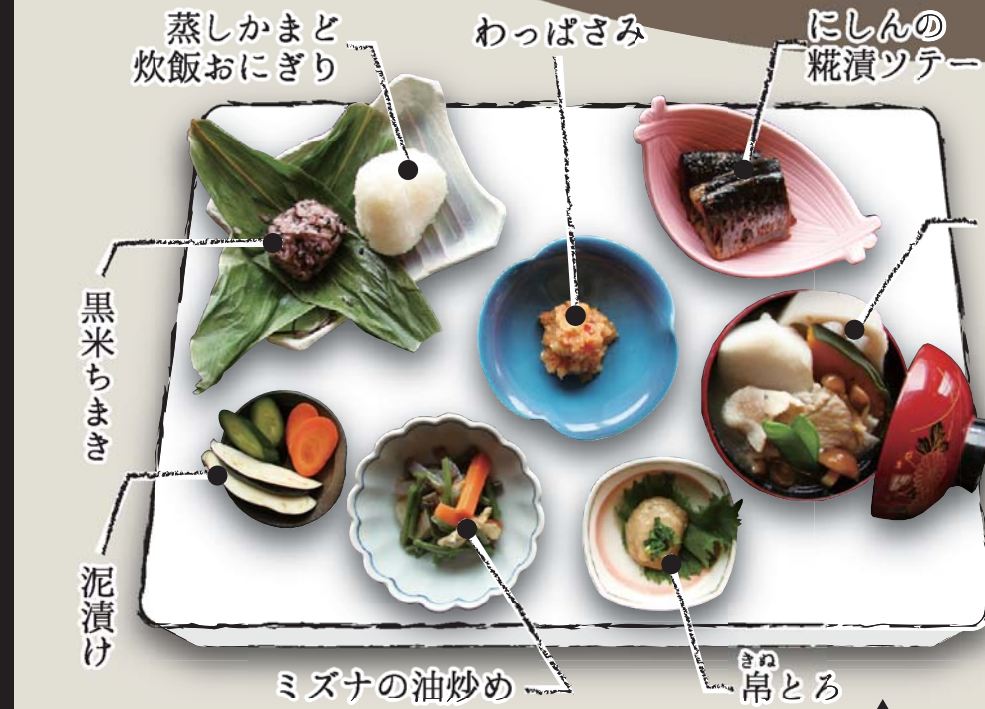
先人たちの知恵が詰まった「蒸しかまど」

良質な粘土が豊富に採れる安田・六野瀬にある(有)小田製陶所では、昭和20〜30年代まで、炭でご飯が炊ける「蒸しかまど」を製造していました。

これは、燃料が貴重だった近代以前に考案された(今で言う)省エネ製品に相当し、実は技術が発達した現代でも、最も美味しくお米を炊ける道具の一つとして知られています。当日は実際に河床で炊飯を体験し、炊き立てご飯の試食会も行われ、あまりの美味しさに驚きの声をあげる方もいました。



阿賀野川
 エコ
 ミュージアム



流域の失われた恵みを蘇らせた「豪華な粗食」

※「豪華な粗食」は(一社)あがのがわ環境学舎が商標登録出願中の旅行商品オプションサービスです。

特集2



阿賀野川エコとこたプロジェクト × 阿賀野川エコミュージアム 平成23年度ロバダン!レポート



- 阿賀野川エコミュージアムで開催したロバダン!一覧
- 1. 咲花温泉ロバダン
 - 2. ゆうきの里体験塾ロバダン
 - 3. 東蒲原自然ロバダン
 - 4. 河床活用ロバダン
 - 5. 雪椿活用ロバダン
 - 6. 角神地域観光ロバダン
 - 7. たきがしら湿原ロバダン
 - 8. 流域木質ロバダン
 - 9. 中流域地産産業ロバダン
 - 10. 農家民宿食体験ロバダン
 - 11. 咲花環境ロバダン
 - 12. 阿賀町農林ロバダン
 - 13. 窯業泥漬けロバダン
 - 14. 咲花女将瓦見学ロバダン
 - 15. 五泉巣本食ロバダン
 - 16. 蒸しかまどロバダン
 - 17. 中流域宝もん交流ロバダン

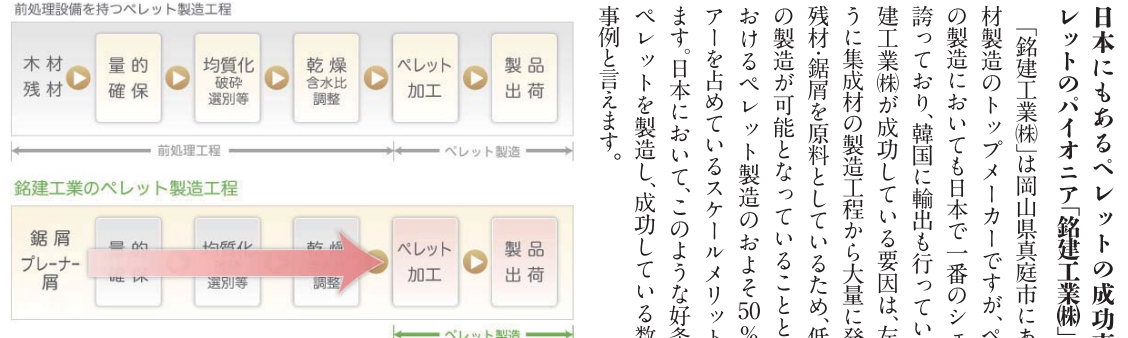


前回(阿賀野川えとことより4号)は、日本の森林が置かれている状況を踏まえて、阿賀野川流域の森林資源をエネルギーとして活用できれば、二酸化炭素の削減と森林の整備の両方を進めることを同時に出来るのではないかと、述べました。今回は欧州のオーストリア及び日本の銘建工業の事例を参考にして、木質バイオマス燃料が経済的に見合うための課題について考えます。

薪を多く使用しているオーストリア
 国全体の一次エネルギー供給に占めるバイオマス利用の割合が31%にもなるオーストリアは、環境税が導入されていないにも関わらず、欧州の中では群を抜いて木質バイオマス燃料の利用が進んでいる国です。その秘密はどこにあるのでしょうか。

オーストリアにおけるエネルギー用の木材の需要は、薪が最も多く年間約800万m³(日本は年間約4万m³)で、これは伝統的にベチカストーブや薪ストーブが使われており、薪を利用する生活スタイルが現代までそう廃れることなく維持されてきたためです。ペレットは巨大な製材所とセットで設置された工場、残材や鋸屑を原料として低コストで製造され、バキューム車で各家庭に供給するシステムができています。また、このような製材所では樹皮などを使った発電も行われ、木質バイオマスが余すことなく効率よく利用されています。
 このように、オーストリアは自らの地域の気候風土に合せて、木質バイオマスを長年に進化させ、現実的な再生可能エネルギー

ギートとして自ら作り上げて、現在に至っています。
日本にもあるペレットの成功事例へ
 「銘建工業(株)は岡山県真庭市にある集成材製造のトップメーカーですが、ペレットの製造においても日本で一番のシェアを誇っており、韓国に輸出も行っています。銘建工業(株)が成功している要因は、左記のように集成材の製造工程から大量に発生する残材、鋸屑を原料としているため、低コストの製造が可能となっていることと、日本におけるペレット製造のおよそ50%のシェアを占めているスケールメリットにより、ペレットを製造し、成功している数少ない事例と言えます。



低コストの秘密 (銘建工業(株)ホームページより)
 量的確保、前処理設備などが不要なために低コストでの製造を実現している。

日本では木質バイオマス燃料の利用拡大に課題山積!
 そもそも、木材を燃料として使用するの最も付加価値の低い使い方であるため、経済的に見合うにはできるだけコストを下げずに製造しなければなりません。ペレットは製造工程が複雑であり、オーストリアや銘建工業(株)の事例でわかるように、製材所の残材や鋸屑を原料とするのでなければ経済的に見合うのは難しく、林業が衰退している日本においては、ペレット製造の推進はなかなか困難であると思われる。チップは大規模需要者向けであり、初期設備投資が高額となります。薪は、保管場所に広いスペースが必要なことや、手作業により投入をしなければならぬ問題もありますが、最も大きい課題は、林地にある間伐材などを効率よく集材・流通するシステムが確立していないことです。

このように考えると、日本において経済的に見合うかたは木質バイオマス燃料の利用を進めることは極めて困難であることに気付かれます。従って視点を改めて、この地域において身の丈にあったやり方で、小規模であっても持続する方法を模索するのが現実的であると考えます。近年、間伐材などの集材方法として、効率よりも地域のお年寄りの生きがいややりがいを活かして、地域づくりにつながる方法が目立っています。いわば木質バイオマス燃料の「葉っぱビジネス(※)」とも言えるかも知れません。阿賀野川流域においてこの方法を推進できれば、薪が木質バイオマス燃料として歩み始める可能性が見えてきます。
 阿賀野川えとことたプロジェクト事務局

(※徳島県上勝町で行われている、「つまもの」つまり日本料理を美しく彩る季節の葉や花、山菜などを販売するビジネスで、全国でも有数の地域活性化型農工商連携のモデルとなっています)

第2回 短期集中連載コラム 「阿賀の宝もん」から考える地球環境
 「地域の独自性」を大切に生かさないと暮らせなかった昔とは違い、現代では豊かな生活の裏で、世界中の資源を使い続け、地球環境問題が深刻化しています。このコラムでは、流域地域も地球環境もどちらも持続可能なように、忘れられた「流域の独自性」=「阿賀の宝もん」を再び生かせる道を探っていきます。
阿賀の宝もん☆発掘コラム
 阿賀野川の歴史や文化、人や暮らし、自然環境...などを一歩深く探る各種コラムを毎月連載。
 映画「阿賀に生きる」に登場した人々が体現する考え方や流域文化、報道などから伝わらない「それぞれの新潟水俣病」、「阿賀の宝もん」と地球環境問題をつなぐと見える流域の未来...など各種コラムを通して、新潟水俣病に向かい乗り越える流域づくりのヒントを発掘していきます!
 ※連載コラム「映画『阿賀に生きる』とその周辺の人々(第3回)」、「それぞれの新潟水俣病(第3回)」は次号掲載します。